

「歴史資料館」上棟式を挙

「歴史資料館」建設、「クラウドファンディング」にご協力を！

「蔵王鉱山歴史資料館」の建設は、工事が順調に進捗していますが、建設資金が不足し大変苦戦しています。

NPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会では、こうした状況を打破すべく、このほど山形新聞社の絶大なご支援により、「クラウドファンディング」に挑戦しました。

目標金額は、100万円。8月27日までの募集期間です。7月末の集金額が目標額の半分に届きません。募金締切まで目標額に達しないときは、全額返済する仕組みとなっています。会員の皆様の絶大なご支援で協力をお願いいたします。

＜募金方法＞

インターネット又はスマートフォンご利用の方は、「Readyfor 蔵王鉱山」で検索してください。そうした通信手段を持たない方は、次の口座に直接振り込んでいただいても結構です。



24m坑口前で記念撮影

- ゆつちゅ銀行 8558支店 普通預金口座 25347009
- 口座名義人 NPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会 理事長 川口兼次
- 連絡先 事務局 099-3113 上山市蔵王字蔵王山 2843-1 (蔵王猿倉レストハウス内) 023-679-2211

「蔵王鉱山歴史資料館」は、令和元年5月15日、蔵王山神社祭礼の日に地鎮祭を執行し、工事が続けられてきました。7月16日(火)上棟式が「NPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会」川口兼次理事長以下、施工業者、役員等30人が参列し挙行されました。

上棟式は、高橋専務理事の司会進行で進められ、工事業者である(有)鈴建・鈴木敏彦社長、小松設計事務所・小松正和代表、NPO 法人川口理事長、佐藤竹志・土屋健一両副理事長、理事代表・原田正男氏による神前の拝礼が行われました。続いた関係者が足を運んでくれるよう、引き続き頑張っていく。



最後に川口理事長から「長年の念願であった資料館が形となって実現した。感謝の意を表す。蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会の活動が、建物の周囲を酒と塩で清めた後、雨の降るよう、引き続き頑張っていく。」と挨拶があり、神事を無事終了しました。完成は、9月末の予定です。



最後に川口理事長から「長年の念願であった資料館が形となって実現した。感謝の意を表す。蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会の活動が、建物の周囲を酒と塩で清めた後、雨の降るよう、引き続き頑張っていく。」と挨拶があり、神事を無事終了しました。完成は、9月末の予定です。

蔵王通信



第13号

発行

NPO 法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1
発行責任者 川口 兼次
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606
編集責任者 高橋 正之
山形県上山市金谷 530 TEL.023-679-2435

印刷所

有限会社 東洋企画印刷
山形県上山市四谷 2-1-46
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

感謝

感謝をこめてご報告
令和元年6月1日から7月31日まで
(クラウドファンディング)については、募集期間満了後に一括して報告させていただきます。

ご寄付

山形市 鹿野 道彦様

会費

- 上山市 吉田あい子様
中川福社村経営者協会様
内海 清人様・小野 塚功様
(例) ニュートラックかみのやま
- 北海道 川口 二郎様・川口とし子様
- 東京都 石原 邦子様
- 新潟県 熊谷 忍様
- 千葉県 村山 司様・渡辺 弘道様
- 神奈川県 山崎 藤之助様
- 尾花沢市 東海林憲夫様
- 山辺町 佐藤 京様
- 山形市 海老名六郎様・秋山 峰広様
川口 周治様・川口タケ子様
西野 昌彦様・西野目洋子様
佐東 弘子様・丹野 啓様
旭岡 勝子様・木村 幹雄様
木村 久子様・川口 兼次様
川口 京子様
- 上山市 山川 秀男様・鈴木 秀幸様
川口長次郎様・長谷部佳明様
佐藤 竹志様・佐藤 芳子様
佐藤 衣利子様・山口千恵子様
鈴木 敏彦様・渋谷 博美様

新会員

- 佐藤 邦明様・今田太加司様
原田 正男様・中川 善博様
村山 利夫様・内海 清人様
川口 尚也様・川口 良子様
枝松 直樹様・川口 豊様
三澤 健二様・齋藤 善吉様
葛谷 栄三様・高橋 正之様
芳賀 高信様・横尾 敏子様
結城 昌夫様
- 上山市 杉原 宏様・柴田 信一様

法人役員が奉仕活動を実施

6月30日(日) NPO 法人では、役員7人が出て、指定管理地であるイベント広場の草刈り作業を行いました。当日は、あいにくの雨でしたが、作業場所が昔ハーモニカ長屋や鉱山事務所のあった場所の仙人沢寄りの斜面であったことから、昔を偲びながら行いました。また、7月4日(木)には、役員7人が出て、市



NPO 法人「語り継ぐ会」の総会を開催

令和元年6月6日(木)、蔵王猿倉レストハウスにおいてNPO 法人蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会の総会が開催されました。総会の出席は、正会員の本人出席が18名、委任状による代理出席が39名、総出席者数57名(現会員77名)でした。総会では、平成30年度の活動報告並びに活動計画の承認、④山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑤山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑥山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑦山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑧山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑨山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑩山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑪山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑫山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑬山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑭山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑮山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑯山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑰山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑱山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑲山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。⑳山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉑山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉒山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉓山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉔山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉕山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉖山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉗山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉘山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉙山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉚山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉛山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉜山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉝山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉞山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㉟山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊱山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊲山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊳山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊴山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊵山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊶山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊷山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊸山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊹山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊺山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊻山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊼山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊽山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊾山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。㊿山形新聞主体の「山形」の収益を高めるため、鉱山関係者の協力を得て環境整備に努める。

役員名簿

敬称略

理事長 川口 兼次

副理事長 佐藤 竹志・土屋 健一

理事 桑原久仁美・佐東 弘子

原田 正男・土田 貞男

丹野 啓・中川 善博

鈴木 敏和・結城 昌夫

専務理事 高橋 正之

監事 内海 清人・長谷部佳明

小川美代子

蔵王鉱山は誰のもの

蔵王鉱山は、閉山され、たがすべてを失った訳ではなかった。

猿倉にあった職員アパートを改造して旅館業(ニュー蔵王山荘)へ変身し、前項で述べたスキー場開発と合わせて、蔵王観光の役割を果たしつつあった。

資本金10億、ときには2割配当。日鉱、三井、三菱、住友、古河、同和の日本鉱業界を代表する大手6社、これを追いかけるようにして急成長した日東金属鉱山株式会社。

その一、日東金属鉱山株式会社の解散①

スが大きく報道され、県鉱連(山形県金属鉱山労働組合連合会)も解散を余儀なくされた。

危ない！既に日東金属鉱山(株)を退職した私ですら危機感をもって会社の動きを見つめていた。

日東金属鉱山(株)は昭和58年3月、ニュー蔵王観光(株)は同年6月、一切の精算事務を終了し解散する。

冷たい通告がニュー蔵王観光労働組(委員長・島貫富男)と川口に提示された。来るべき時は来た、とは思ったものの参った。

困った。

ニュー蔵王山荘には、自主経営という形で頑張ってきた7人の仲間が働いていたし、スキー場の一部は会社からの借地であり、私の力ではどうにもならない追い込まれを意識した。

会社は、日東金属鉱山(株)と縁があった藤田観光や東北地方の観光開発に意欲的だった国際興業にスキー場を含めた全資産の売却に動いた。

7人の仲間と共に、その動きを見守るしかな



②につづく (川口兼次)

左: 旧蔵王寮、後に渡り廊下でつなぎ別館として利用
右: 旧職員アパート、改造してニュー蔵王山荘

会員通信

心不全が悪化し、ペースメーカーを入れました。
つい昔の事を思い出しております。残念ながらスキー及びウェア一式を人にあげました。
またレスリングの教え子が最終プレーで負け、次のオリンピックを目指すことになり、ガッカリしているところです。
女子 50Kg 須崎優衣 (早大2年生) は、小1〜中1まで全て教えた子。今後体力が回復すれば一つだけレスリング技を教えたい事があり、夢をもっております。
今後は、本を読むか、カントリーウエスタンミュージックを聴くか、できるだけのんびりして行こうと思っております。
スキーは、猿倉、蔵王で懸命に滑った思い出を大切に参ります。川口さんはじめ皆様に宜しくお伝えください。
千葉県松戸市 勤労部 渡辺 弘道

父 (豊太郎) は、電気工事夫として働き、その後「クラッシュャー」に移り、閉山まで働きました。母 (マスイ) も精錬所で働いておりました。
私も高校卒業後、川口兼次理事長が組合長の時に、日東金属鉱山 (株) の組合事務として入所し、事務職を一から指導を受けたおかげで、色んな職場を転職しましたが、事務を続けて生計を築くことが出来ました。現在も週3日程コンビニで元気で働かせていただいています。
上山市石堂 労組事務局 佐藤 泰子

会報の「硫黄」その他、見せていただく度に皆様のご活躍に敬服すると同時に、私自身の蔵王時代を想いだし感無量です。
振り返れば私が蔵王鉱山にお世話になったのは昭和31年の春、5月からでした。新潟大学の理学部地質鉱物科を卒業し、採鉱部探査課の所属となりました。
当時新潟大学は新制大学としてできたばかりで、世間からは「駅弁大学」と馬鹿にされていたので、卒業しても就職がままならぬ状態でしたから、上場会社でしかも、社長が藤山愛一郎とあって、父は鼻高々だったようです。そのようなことで長男である私の戸籍を抜いて蔵王に移したくらいです。(中略)
それから約7年、元山探査課でお世話になり、昭和37年末、合理化に伴う希望退職に応じ山を下りた、というのが私にとっての蔵王鉱山時代です。
新潟に帰ってからのその後の四苦八苦の生活も何とか乗り切って、あとはお迎えが来るのをのんびりと待つばかりの今日この頃です。(中略)
皆様のご健闘ご活躍、感服しております。特に猿倉レストハウス及びスキーグレンデの経営は、蔵王火山の大自然を背景とした大事業です。何のお手伝いも出来なくて申し訳ありませんが、大成功と皆様のご健勝を遠くから祈っています。
新潟市西区真砂 採鉱部探査課 熊谷 忍

補足

熊谷様には、この程、元山の坑内構造や採鉱事情に関する詳細な記録を送っていただきました。その記述については、編集上の都合上、現在掲載中の「坑内火災の出火、密閉の経過」の続編として後日掲載させていただきます。
また熊谷様は、これまで元山の坑内外地図等を沢山寄贈してくれています。その資料については、完成後の「歴史資料館」に展示させていただくことにしております。

資料館展示物の先行紹介

「歴史資料館」の建設を目前にして、会員や賛助会員から鉱山の暮らしぶりを写した「写真集」や事業活動の一部を記録した史料の寄贈を受けております。

密閉作業中の作業員

坑内火災の出火、密閉の経過 (その2)

<12月26日>
02:40 ~ 監督官が元山に到着。直ちに状況報告を受け、対策協議に入る。(協議は07:00に終了)
03:00 ~ 夜警夫が坑外巡回中、24米坑口で異常な臭気(SO2)を感じた。
06:30 ~ 吉野救護隊が到着。
09:00 ~ 対策本部を元山事務所2階に移し強化を図る。密閉必要資材の手配、運搬作業を実施する。
11:00 ~ 相内救護隊が到着する。
13:00 ~ 山神坑内NO1、2、3の3か所の板張り仮密閉を吉野、相内、蔵王救護隊によって実施する。
13:40 ~ 県防災課長及び鉱業課長、上山市消防団員30人(ポンプ3台)が到着する。
14:50 ~ 松尾救護隊、隊長以下17人が到着する。
15:40 ~ 仙台保安監督部監督課長が到着。直ちに状況を報告する。
19:20 ~ 職員の案内により、松尾救護隊が24米坑を探検し、坑口より160米に至る。
22:10 ~ 松尾、蔵王班によって、24米坑の板張りによる仮密閉1か所、空気袋による密閉2か所計3か所の密閉を終了する(坑口より)。
23:00 ~ 松尾班が24米坑を探検。西1号坑の火災は認められないようであるが、高温のため、踏前に避難硫黄の石筍が多数発見された。
<12月27日>
02:00 ~ 24:00
米坑西1号坑付近の消火注水作業を再開すべく、吉野、相内、蔵王班がホース延長作業に取り掛かったが、濃ガス、高温のため目的地まで到達できず、注水作業を中止する。
11:00 ~ 大揚救護隊が到着する。
12:00 ~ 本社・鉱務部長が到着する。
12:10 ~ 松尾第1班24米坑に進入。西1号坑まで消火ホースを延長する。
13:10 ~ 松尾第2班、24米坑西1号坑に放水開始する。
15:50 ~ 松尾第1班、24米坑電車車庫よりバッテリーを撤去する。
16:30 ~ 副松尾第2班、24米坑NO16採入口の密閉を完了する。
18:40 ~ 松尾第1班、24米坑⑦の密閉を完了する。

19:20 ~ 相内班、24米坑④の密閉を完了する。
松尾第3班、24米坑⑧の密閉を完了する。
21:30 ~ 吉野班、24米坑①②③の密閉を完了する。
21:50 ~ 相内班、24米坑、⑤の密閉を完了する。
以上、⑨⑩⑪の密閉を残して終了とする。
22:00 ~ 28日9時まで、24米坑西1号坑付近に無人放水を実施する。
<12月28日>
09:00 ~ 相各山の救護隊を再編成し強化を図る。
10:00 ~ 相内救護隊(第2陣)、4人が到着する。
12:00 ~ 松尾第2班、蔵王班が、24米坑主要運搬道の探検に入り、西1号坑付近まで達する。探検の結果、電車車庫より15米奥部まで火が回っていると推定された(坑口より163米)。付近は天盤が鳴り、落石が続発していることが判明した。
13:00 ~ 濃SO2ガスが24米坑口より排出され、24米坑口の救護隊基地が危険にさらされたため、全員の退避命令が出された。
13:20 ~ 全員の退避が終了。救護隊基地を元山事務所に移す。
14:00 ~ 「対策本部」において、会社幹部、保安監督官、各山救護隊長(計15人)が参集し、今後の重要(?)対策を協議する。
<決定事項> ① 従来の注水消火作業を中止する。
② 坑内への入気を全部遮断する。
<実施事項> ① 24米坑大広間3か所の密閉
② 山神坑密閉3か所の強化
③ 〇米坑坑口の密閉強化
15:00 ~ 刈田寮待機者及び消防団全員が元山事務所へ避難し、消防団員は直ちに下山する。
17:00 ~ 実施事項の①②③は、29日実施することとし、本社鉱務部長が下山する。
19:00 ~ 松尾班が24米坑大広間の密閉箇所(3か所)の探検を実施する。
19:30 ~ 監督官が到着。
松尾班が〇米坑坑口に従前の密閉手前の新規密閉を実施し完了する。
20:00 ~ SO2ガス臭気が元山坑外に充満する。湧清寮宿泊の関係者及び救護隊員は、ドレーガー及びA型マスクを備えて避難の用意をす。なお、坑外(事務所付近)は、A型マスクを着用しなければ歩行困難となり、炊事婦は元山社宅に避難させる。(以下、次号に続く)

この史料は、「蔵王鉱山歴史資料館」に展示することとしておりますが、展示に先立ち、その要旨を紹介させていただきます。
※文章の形式は分かりやすい現代文に修正し、また関係者の固有名詞は、ご遺族や関係者の意向に配慮し、非開示とさせていただきます。

昭和37年12月25日早朝に認知された坑内火災は、当日、懸命の消火注水作業が行われたが、当日中の消火には至らなかった。
翌26日以降も懸命の消火注水作業が行われたものの依然好転せず、状況は次のように推移した。

「坑内火災と密閉の経過」その2

蔵王通信

◇金森先生 鉱山で教鞭をとった金森昌江先生の本を探しに図書館へ。先生は、短歌会の会長もされ、自伝的な歌文集「あかしやの道」を著し寄贈。先生の鉱山生活の一端を「中川地区公民館だより」元年8月号から紹介中。後日、本紙でも紹介予定。(高橋)
◇永松の会 機関紙「永松通信」に「故郷・思い出すこと・幼なじみ」の記事を掲載している鈴木一吉さんと交流が始まる。鉱山生活は、永松も蔵王も不便でしたが、幸せな「思い出」を育んだ場所でもありました。鈴木一吉様と鈴木義雄様のご好意に感謝しています。(高橋)

編集後記

◇「ペンで結ぶ、近況だより」は、本紙の発行が急がれたため、次号以降に繰り延べとなりました。ご了承ください。
◇「会員通信」のご依頼に応えていただいた渡辺様、佐藤様、熊谷様にはありがとうございました。近況を知り懐かしんでおられる方が沢山おられると思います。
◇資料館が遂に体現しました。当時の小学校体育館の3分の1の大きさです。建物の中でステージはこだったとか話しているうち、ドッジボールや同級生の「K君」とやった相撲、すし詰めで見た映画会などが蘇りました。
◇資料館の資金捻出に苦勞しています。あくまでも善意のことですが、更なるご支援の程よろしくお願いたします。(高橋記)